

青少年 とちぎ

令和7年3月1日

第225号

CONTENTS

- 1 ミライチャレンジプロジェクト事業
- 2 少年の主張県大会
- 4 2024「家庭の日」絵日記コンテスト結果
- 6 親子学び合い事業
- 7 青少年育成市町村民会議全体連携会議
青少年育成セミナー
- 8 青少年育成指導員会
- 9 市町村民会議活動報告
- 10 栃木県青少年育成県民会議表彰
御寄附いただきました
- 11 賛助会員募集
- 12 賛助会員(団体)のご紹介



栃木県青少年育成県民会議
シンボルマーク

【発行】栃木県青少年育成県民会議（公財）とちぎ未来づくり財団青少年育成課
宇都宮市本町1-8 TEL028-643-1005 FAX028-650-5284 URL: <https://www.tmf.or.jp> E-mail: ikusei@tmf.or.jp

令和6年度ミライチャレンジプロジェクト事業



ミライチャレンジプロジェクト事業は、若者が自ら提案し、主体的に実行する企画や企業・NPO・団体等との協働による企画を募集し、その優れたものに対して活動費を補助し、メンターによる伴走支援とアドバイザーによる助言を行う事業です。この活動を通して、県政課題の解決や地域の活性化を図るとともに、社会をよりよくする次世代の若者リーダーを育成・輩出することを目的としています。

本年度は多くの団体から応募があり、研修や審査会を経て、6団体がミライチャレンジプロジェクト事業認定団体として選ばれました。7月から12月までの期間、各団体はそれぞれの企画を実行し、活動の振り返りを行いました。1月の活動成果報告では、実績や今後の課題を発表し、来場者や他の団体と繋がり、情報交換や交流を行いました。

認定団体と事業名

団体名	事業名
りんくる	明るい未来を奏でようプロジェクト
作新短大・子育て支援隊	ぼかぼかの芽～絵本で笑顔が輝く親子～
日光若者まちおこし団体N i T	日光市今市地区にある空き店舗を活用したワークショップにおける若者と地域住民の交流および活動推進事業
一般社団法人ローカルキャンパス	トチギ WILL—CAN ピッチ
Orion × Students (おーえす！)	Orion School Festival (オリフェス)
SEEDs	木材アップサイクル事業

第47回栃木県少年の主張発表県大会

本年度の栃木県少年の主張発表大会には、県内の中学生12,566名の応募があり、各地区大会には各校代表の157名が参加しました。県大会は9月21日(土)に栃木県総合文化センターサブホールで開催され、8つの地区大会で選ばれた代表16名が主張を発表しました。

今回も、多様性やアニマルウェルフェアなどSDGsに関すること、障がいを持つ家族との関係やLGBTQについての提言など社会の課題を鋭くとらえたテーマについて、中学生らしい斬新な視点からのみずみずしい主張が展開されました。また、県大会では新たに高校生がボランティアとして司会を担当しました。



【県大会入賞者一覧】

賞	氏名	学校名・学年	題名
最優秀賞	岡本 智尋	高根沢町立北高根沢中学校3年	心の土台を固めて
優秀賞 (発表順)	蛭澤 奏太	宇都宮市立星が丘中学校3年	日々頂いている命を考える
	引敷林杏和	鹿沼市立東中学校3年	本当の豊かさ
	高崎 愛梨	真岡市立山前中学校3年	自分らしく暮らせる社会へ
奨励賞 (発表順)	篠原 香音	茂木町立茂木中学校3年	光
	山本 芽生	栃木市立栃木南中学校3年	私のキャラ
	島崎 彩葉	宇都宮市立旭中学校3年	カラフルな脳
	新井 遙夏	佐野市立城東中学校3年	「私だからできること」
	盛田 陽斗	宇都宮市立若松原中学校3年	自分のままで
	金井そよか	日光市立東中学校3年	つながりが迎える明日
	宮城 碧	佐野日本大学中等教育学校3年	オーケストラの奏でる音楽のごとく
	後藤 桃華	那須塩原市立黒磯中学校3年	誰でも住みやすい世界を作るには
	菅野 泰我	那須町立那須中央中学校3年	未来を創る
	長 颯真	栃木市立吹上中学校3年	蔵の街と僕の夢
	滝田 帆香	那須烏山市立烏山中学校3年	母が教えてくれた「普通」
増田 杏	小山市立豊田中学校3年	言葉の力とその一言	

最優秀賞



心の土台を固めて

高根沢町立北高根沢中学校3年

おかもと ちひろ
岡本 智尋

「多様性を認める学校に、していきたいです。」

昨年の生徒会立会演説会で、自分が言った、この言葉に、最近、違和感を持つようになりました。

私の学校では、数年前から学校のきまりが見直されるようになり、運動靴や靴下、下着の色も、白一色ではなくなりました。女子のスラックスの着用も認められています。

現在の生徒会役員である私たちは、見直す必要があると思うものや、守られていないきまりなどの洗い出しを進めているところです。

その話し合いの中で、ふと疑問に思ったことがありました。髪型や服装などは、多様性について考えていく必要があると思いますが私たちが社会生活を営む上で、当然守るべきルールやマナー、例えば、時間を守ることや挨拶や返事をするということまでもが、「多様性」という言葉で曖昧になってきているのではないかということです。できないことや苦手なことは無理にやらなくてもよいなど、「多様性」という言葉の解釈そのものが多様になり、あらゆる考えを容認してしまう「魔法のアイテム」として、浸透しつつあるのではないかと思うようになりました。

私は改めて「多様性」という言葉を辞書で調べてみました。そこには「いろいろな種類や傾向のものがあること。変化に富むこと。」と書いてありました。どこか曖昧で、はっきりとした定義がなく、使い次第では、さまざまな形に変化してしまいそうな危うさを感じました。

小学校3年生のときのことで、新しく担任になった先生から、全員で守るように言われたことがあります。それは、宿題をきちんと出す、廊下を走らない、挨拶をする、けんかをしないなど、どれも小学校1年生の時に習うような基本的なルールばかりでした。でも、その頃の私たちは、そんな当たり前のことができていなかったのです。先生は私たちに、こう話してくださいました。

「自分の意見が正しかったとしても、信用されて

いなければ、その意見をだれも真剣に聞いてはくれないだろう。信頼される人間になるためには、普段の生活をきちんとしていこう。そして、自分の意見を胸を張って言えるようにしましょう。」

この言葉は今でも心に残っています。そして多様性という言葉の軽さに違和感を覚えたのは、先生の言葉が、ずっと私の心の土台になっているからだということに気づきました。

ルールやマナーを守るということは社会生活を営む上での大きな基盤です。それは得意不得意や好き嫌いとは関係のないもので、私たちが共通して築きあげていくものだと思います。2年ほど前、カタールで行われたサッカーの世界カップで、日本代表が使ったあとの整理整頓されたロッカールームや、ゴミ拾いをするサポーターの姿が海外メディアで賞賛されたことがありました。私たちが幼いころから学び、大切にしてきたことが外国でも実践されたこと、そして、それが高く評価されたことを誇りに思います。

多様性を認めるとは、いろいろな価値観を持つ人間同士が、自分の個性を互いに生かせるようにしていくことだと思います。でも、それは、共通の土台があるからこそ成り立つものではないでしょうか。ルールやマナーを守ること、周りへの感謝や相手を敬う気持ちをもつことがその土台を作るのだと思います。

私たちは、自分の考え方や生き方が否定されるのではないかと不安になることがあります。だからこそ、守るべきものは何なのか、変えなければいけないことは何なのか、本当に大切なことは何なのかを真剣に考え、確かめ合いながら、それぞれの心の土台を、揺るぎのない、頑丈なものにしていくことが重要なのではないのでしょうか。

一人一人の、その取り組みこそが、多様性を認める社会の実現の第一歩であると思います。

とちぎ心のスクラム県民運動

毎月第3日曜日は

2024家庭の日 絵日記コンテスト結果



ふれあい育む「家庭の日」を広報・啓発し県民総ぐるみで青少年の育成に取り組むため、県内の小学生以下を対象に家族のふれあいや思い出等をテーマにした絵日記を募集しました。今回は1,205点の応募があり、いずれも子どもたちの家族を大切に思うやさしさや家族への感謝にあふれた心温まる作品ばかりでした。

また、入賞作品を掲載した「2025年度家庭の日カレンダー」を作成し、県内の小・中学校や公民館などにお配りしました。



最優秀賞

長谷川 由珠さん
「ごはんモグモグ大きくせん」

優秀賞



山口 陽花里さん
「わたしのいもうと」

優秀賞



稲葉 柁さん
「ひまわりの笑顔」

優秀賞



岩永 ひなのさん
「兄との赤べこぬり」

優良賞



永田 陽奈望さん
「あさのキュー」



森田 龍斗さん
「おかあさん」



相良 碧彦さん
「家ぞくの花火」



星 采希さん
「わたしとおねえちゃん」



澤村 碧惟さん
「大きなせ中」



星川 倅輝さん
「元気で帰ってきたお父さん」



五十嵐 大雅さん
「お母さんのたんじょう日プレゼント」



江尻 優大さん
「けんか」

家庭の日カレンダーは、一般社団法人倫理研究所栃木県倫理法人会様の協賛により作成しました。

親子学び合い事業～ネット時代の歩き方講習会～

「親子学び合い事業～ネット時代の歩き方講習会～」は、子どもたち一人ひとりが、インターネット・スマートフォンの危険性や利便性などの特性をしっかりと理解した上で、インターネットやスマートフォンをどのように活用して自らの人生に役立てていくかを主体的に考える、そのきっかけになることを目的としています。令和6年度は、県内の小・中・義務教育学校及び特別支援学校101校で講習会を実施しました。

実施希望につきましては、当県民会議までお問い合わせください。



令和6年度「親子学び合い事業～ネット時代の歩き方講習会～」実施校

実施日	学校名	実施日	学校名	実施日	学校名
4月26日(金)	那須町立学びの森小学校	7月 3日(水)	那須烏山市立南那須中学校	10月23日(水)	佐野市立城北小学校
5月 8日(水)	上三川町立上三川小学校	7月 4日(木)	栃木市立吹上中学校	10月25日(金)	栃木市立大平中央小学校
5月13日(月)	日光市立小林小学校	7月 5日(金)	宇都宮市立田原小学校	10月29日(火)	茂木町立茂木小学校
5月17日(金)	栃木県立国分寺特別支援学校	7月 5日(金)	矢板市立片岡小学校	10月30日(水)	日光市立今市第二小学校
5月21日(火)	栃木県立益子特別支援学校	7月 5日(金)	益子町立益子中学校	11月 6日(水)	小山市立大谷中学校
5月28日(火)	那珂川町立馬頭中学校	7月 8日(月)	さくら市立氏家小学校	11月 7日(木)	大田原市立湯津上小学校
5月29日(水)	大田原市立黒羽中学校	7月 9日(火)	日光市立藤原中学校	11月 8日(金)	日光市立大室小学校
5月30日(木)	栃木市立合戦場小学校	7月 9日(火)	那須塩原市立黒磯北中学校	11月11日(月)	小山市立網戸小学校
5月30日(木)	日光市立中宮祠小中学校	7月 9日(火)	下野市立国分寺中学校	11月13日(水)	小山市立美田中学校
5月31日(金)	栃木市立大平南中学校	7月10日(水)	鹿沼市立津田小学校	11月14日(木)	野木町立野木第二中学校
6月 5日(水)	市貝町立小貝小学校	7月10日(水)	高根沢町立阿久津小学校	11月15日(金)	壬生町立壬生小学校
6月 6日(木)	真岡市立長田小学校	7月16日(火)	那須塩原市立厚崎中学校	11月22日(金)	大田原市立川西小学校
6月 7日(金)	佐野市立田沼東中学校	7月16日(火)	那須烏山市立烏山中学校	11月22日(金)	益子町立益子西小学校
6月14日(金)	栃木市立東陽中学校	7月17日(水)	鹿沼市立南摩小学校	11月22日(金)	壬生町立安塚小学校
6月14日(金)	野木町立南赤塚小学校	9月 2日(月)	大田原市立黒羽小学校	11月26日(火)	足利市立山辺小学校
6月18日(火)	真岡市立真岡西中学校	9月 3日(火)	さくら市立上松山小学校	11月27日(水)	足利市立東山小学校
6月19日(水)	鹿沼市立南摩中学校	9月 6日(金)	日光市立落合中学校	11月27日(水)	市貝町立赤羽小学校
6月24日(月)	那須塩原市立稲村小学校	9月 9日(月)	小山市立東城南小学校	12月 2日(月)	佐野市立犬伏小学校
6月25日(火)	小山市立小山城南小学校	9月10日(火)	下野市立国分寺東小学校	12月 4日(水)	日光市立今市中学校
6月26日(水)	足利市立毛野南小学校	9月11日(水)	那珂川町立小川中学校	12月 4日(水)	上三川町立坂上小学校
6月26日(水)	足利市立富田小学校	9月11日(水)	宇都宮市立横川中央小学校	12月 5日(木)	小山市立羽川西小学校
6月26日(水)	日光市立轟小学校	9月18日(水)	足利市立三重小学校	12月 6日(金)	鹿沼市立東中学校
6月26日(水)	大田原市立石上小学校	9月19日(木)	栃木市立栃木第五小学校	12月12日(木)	下野市立石橋中学校
6月27日(木)	那須町立那須高原小学校	9月20日(金)	那須塩原市立西小学校	12月13日(金)	佐野市立犬伏東小学校
6月28日(金)	芳賀町立芳賀東小学校	9月25日(水)	矢板市立矢板小学校	12月13日(金)	小山市立乙女小学校
7月 1日(月)	栃木県立那須特別支援学校	9月25日(水)	矢板市立泉小学校	1月28日(火)	那須塩原市立鍋掛小学校
7月 2日(火)	栃木市立千塚小学校	9月25日(水)	茂木町立中川小学校	2月 5日(水)	足利市立梁田小学校
7月 2日(火)	佐野市立佐野小学校	9月25日(水)	足利市立南小学校	2月 7日(金)	大田原市立薄葉小学校
7月 2日(火)	小山市立大谷北小学校	9月30日(月)	塩谷町立大宮小学校	2月 7日(金)	壬生町立稲葉小学校
7月 2日(火)	高根沢町立中央小学校	10月 2日(水)	鹿沼市立加園小学校	2月12日(水)	佐野市立旗川小学校
7月 3日(水)	鹿沼市立板荷中学校	10月 4日(金)	那須塩原市立南小学校	2月12日(水)	塩谷町立玉生小学校
7月 3日(水)	鹿沼市立南押原中学校	10月 9日(水)	宇都宮市立昭和小学校	2月14日(金)	芳賀町立芳賀北小学校
7月 3日(水)	真岡市立中村中学校	10月11日(金)	佐野市立西中学校	2月25日(火)	真岡市立山前中学校
7月 3日(水)	さくら市立押上小学校	10月22日(火)	栃木市立吹上小学校		

令和6年度青少年育成市町村民会議等全体連携会議

6月4日(火)、栃木県総合文化センターにおいて「令和6年度青少年育成市町村民会議等全体連携会議」を開催しました。各市町村民会議の代表・事務局と青少年育成関係団体の代表約80名が一堂に会しました。この全体連携会議は青少年育成運動の円滑かつ効果的な推進を図るために、県内全市町村民会議と青少年育成関係団体、指導者が集い、より広い運動の連携の在り方を考えるとともに、青少年育成に係る諸問題について意見交換・情報交換を行い、情報の共有を図ることを目的としています。

前半は各関係機関から今年度の事業説明を受けました。そして後半はNPO法人「D.Live」代表理事の田中洋輔様より、「子どもたちの自尊感情を高める大人の関わり方」と題して講演をいただきました。不登校児童生徒が増える中、子どもたちが自分の存在について自信を持ち、前向きに生活していくための大人の関わり方について、多くの示唆をいただきました。



青少年育成セミナー

本セミナーは、青少年を様々な角度から見つめ、大人としてどのように向き合っていけばよいのかを、講師を交えて考えることで青少年育成活動の一層の充実につなげるとともに、青少年の自立を支え社会への参加を促すための大人の役割を見直す機会とするため、令和4年度から実施している事業です。第1回は、11月28日(木)にとちぎ青少年センターで開催し、67名の参加をいただきました。2回目は3月1日(土)に栃木県総合文化センター特別会議室を会場として実施しました。

第1回 子どもたちの安心できる環境をいかに整えていくか

NPO法人キーデザイン 代表理事 土橋 優平 氏

増加する不登校の現状と課題、そして解決策が語られました。栃木県は不登校率が全国3位と高く深刻な状況であり、不登校離職や保護者の精神的な不安、職場での理解不足が課題として挙げられました。土橋氏は、不登校は子どもが限界を超えた状態であり、学校以外の学びや繋がり機会を認めない社会の空気が問題だと指摘。子どもには味方と多様な選択肢が必要であり、親は伴走者であるべきだと述べました。不登校問題の解決には社会全体で子どもたちを支える必要があると締めくくりました。

【11月28日(木)実施】



第2回 「自然体験」は子どもの何を育んでくれるの？

～森のようちえんの活動を通して見えてきたもの～

NPO法人みんなのかたち 代表兼理事 栗田 しのぶ 氏

不登校の子どもが増加する中、その背景には「自己肯定感の低さ」が大きく関わっていることがわかっています。第2回青少年育成セミナーでは茂木町の豊かな自然の中で幼稚園などを運営されている栗田氏に、自然の中で様々な体験をすることで、子どもたちの自己肯定感を高め、心身ともに健やかに成長できる可能性について講演していただきました。

【3月1日(土)実施】

栃木県青少年育成指導員会総会

令和6年4月19日(金)にとちぎ青少年センターにおいて、令和6年度栃木県青少年育成指導員会総会が開催されました。

総会に先立ち、本年度新たに青少年育成指導員になった方に栃木県青少年育成県民会議の千金楽理事長から委嘱状を交付しました。新任の青少年育成指導員は、石川俊夫さん(鹿沼市)と高德則夫さん(市貝町)の2名です。

総会では、昨年度の事業報告や今年度の計画などについての提案があり、原案通り可決されました。また、青木会長から青少年育成指導員制度の見直しについての状況報告がありました。



栃木県青少年育成指導員会第1回自主研修会

栃木県青少年育成指導員会総会に引続いて、第1回自主研修会が実施されました。今回は、前栃木県連合教育会常務理事(教育相談担当)の柴一彌氏から、「子どもたちに起きていること、親の戸惑い、悩みをどう受け止めますか?」と題した講話をいただきました。柴氏はスクールカウンセラーとして長く活躍された経験をもとに子どもたちを取り巻く現状について説明され、子どもとの接し方や声のかけ方などで気をつけるべき点などをお話くださいました。青少年育成指導員の中には学校の現状についてあまり詳しくない方もおり貴重な講話となりました。



栃木県青少年育成指導員会第2回自主研修会

第2回自主研修会は、11月1日(金)から2日(土)にかけて「栃木JIMINIE倶楽部自然の家みかも」において実施されました。栃木JIMINIE倶楽部自然の家みかもは、栃木市と佐野市にまたがる県営みかも山公園内に、令和6年4月にオープンした新しい自然体験型教育拠点です。

最初に施設見学を行い、三義山の山腹を利用してつくられた施設を見て回りました。その後、研修室で今後の青少年育成指導員制度について意見交換を行いました。最初に青少年育成県民会議の千金楽理事長から県との協議内容の報告や今後の方針についての説明があり、その後自由に意見を出し合いました。青少年育成指導員の存続について、各々の考えが表明される機会となりました。



市町村民会議活動報告

壬生町青少年健全育成実施委員会

壬生町青少年育成指導員会では、年度初めに年間の活動計画を立て、お祭りのパトロールや啓発活動を行っています。今年度は、9月29日(日)に壬生町教育委員会主催で行われた「みぶ城址フェスティバル」の会場において、青少年育成指導員の皆様と一緒に、声掛けと啓発品の配布を行いました。

みぶ城址フェスティバルでは中学生ボランティアによる売店や古本のフリマなどの様々な出し物があるため、小さなお子様から高齢の方まで様々な年代の方がいらっしゃいます。これを、広い年代の方に青少年健全育成について知っていただくチャンスととらえ、より効果的な啓発活動が行えるよう工夫して準備しました。例えば、配布した啓発品のクリアファイルやリーフレットは、壬生町青少年育成指導員会の広報部会の方たちがアイデアを出し合い、春先から計画的に作成してきたものです。リーフレットには、「壬生の子元気」をキーワードに、ネットやスマホ、ゲームとの上手な付き合い方を分かりやすいフレーズにまとめました。色の組み合わせや字体にまでこだわり、より印象に残りやすくなるよう試行錯誤しました。これらの小さな工夫により、ネット等の安全な使い方がたくさんの世代により広く浸透していくことを期待しています。

初めて参加される指導員さんも多かった中で、皆さんが積極的に声を掛けていた姿がとても印象に残っています。今後も青少年の健全育成を推進する活動を実施し、壬生町のお子さんが健やかに育っていくことを願っています。



高根沢町青少年健全育成推進委員会

きらきらフェスタ2024 ～キミもワタシも主人公～

高根沢町青少年健全育成大会実行委員会は13名で活動しており、「日頃頑張っている小学生・中学生・高校生を応援しよう」を目的にきらきらフェスタを開催しています。

平成18年度から始まり、令和6年度で17回目を迎えました。(令和2年度、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止)

今年度は、令和6年11月30日(土)に高根沢町町民ホールで開催しました。

主な内容は、作品展示とステージパフォーマンスです。

作品展示では、児童生徒の絵画や書道その他、美術部が作成したきらきらフェスタポスターの展示も行っています。ポスターは30点の作品応募があり、最優秀賞を実行委員会で選考し、きらきらフェスタの開会式で表彰しました。

ステージパフォーマンスでは、13組85名が出演し、ピアノ・吹奏楽・和太鼓・海外派遣事業発表・空手・ダンス等の発表がありました。

子どもたちが作り上げていくイベントを目指しており、司会進行・ボランティア等、地域の青少年と協力し実施しています。

来場者からは、「若い世代が中心になって活動しているところが素晴らしい」、「子ども達の努力が伝わり感動した」などの声もあり、きらきらフェスタを毎年楽しみに来場する町民も多く、地域で子ども達の成長を見守るよい機会となっています。



【事業費について】

実施費用	約27万円
助成金	約2万円
町補助金	約25万円

栃木県青少年育成県民会議表彰

令和6年11月14日(木)に栃木県公館において「令和6年度栃木県青少年健全育成功労者等表彰式」を開催しました。

栃木県青少年健全育成表彰、「家庭の日」絵日記コンテスト入賞者表彰とともに、栃木県青少年育成県民会議表彰を執り行いました。

このうち、栃木県青少年育成県民会議（(公財)とちぎ未来づくり財団）より表彰された方々は以下のとおりです。(五十音順、敬称略)

栃木県青少年育成県民会議表彰

明日の栃木県を担う青少年の健全育成を促進するため、「とちぎの子ども育成憲章」の理念に沿った活動をもって、青少年の育成に功績のあった、個人、団体及び社会貢献青少年を表彰しました。

子ども育成・憲章功労者

秋山はつみ	飯島 正雄	五十嵐秀行
大竹 晃子	押山 勇人	木下 悦男
渋谷 康二	瀬下 敏明	高橋由希子
竹内 秀夫	中野 憲章	鉢村 修
早川 正人	文狭 信子	増子 定徳
三柴裕見子	三田 正俊	湯田 正三
		他3名

池田 学	石塚 勝	井上 俊男
小池 清久	小梅 雄信	後藤 秀男



子ども育成・憲章功労団体

石橋北小学校スクールガードボランティア
 家庭教育オピニオンリーダーたんぼぼの会
 亀山小学校スクールガード
 国分寺点字サークル「ありんこ」
 青少年を育てる会境地区協議会
 特定非営利活動法人那須高原自然学校

お話しポケットの会
 株式会社オリジン間々田工場
 河内地区まちづくり協議会
 小松流新灘子みはらお灘子連
 創年大学ぶらぶらクラブ
 まほろば防犯パトロール隊

社会貢献青少年

川島 花野

優良青少年団体

(今年度該当団体なし)



御寄附いただきました

○菊池宏行氏(東京石灰工業(株)代表取締役社長)

当財団の評議員を務める菊池宏行氏が、150万円を栃木県青少年育成県民会議へ寄附し、令和6年9月20日(金)に栃木県庁において寄附金ならびに感謝状の贈呈式が行われました。菊池社長には“青少年の健全育成に役立ててほしい”という思いから毎年御寄附いただいております。今回で15年目になります。また今年度は新規事業である「ミライチャレンジプロジェクト事業」における若者の活動を支援したいとの思いから更に御寄附をいただきました。

当日は、菊池社長から寄附金の目録が県民会議会長の福田富一知事に手渡され、会長から感謝状を贈呈しました。



○栃木県更生保護女性連盟

令和7年1月17日(金)に栃木県更生保護女性連盟の「新春のつどい」がホテル東日本宇都宮で開催され、「愛の募金」を御寄附いただきました。栃木県更生保護女性連盟の皆様方からの御支援は、少年の主張発表大会をはじめとした青少年健全育成事業で活用させていただいております。

また、「栃木県少年の主張発表県大会」出場者並びにボランティアの高校生に対する記念品として、長年にわたり図書カードを御提供いただいております。9月21日(土)に栃木県総合文化センターで行われた県大会において、伏木ミサ子会長から出場した生徒らに記念品を手渡していただきました。



○栃木県倫理法人会

令和7年1月21日(火)栃木県総合文化センターにおいて、栃木県倫理法人会からの寄付金並びに感謝状の贈呈式がありました。栃木県倫理法人会からは多年にわたり家庭の日の普及啓発のために御寄附をいただいております。当日は栃木県倫理法人会会長の佐川浩一様から目録が県民会議会長の福田知事に手渡され、感謝状を知事から会長に手渡しました。また同会の社会貢献委員会「家庭の日」担当として長年御尽力いただいた福田陽様に、県民会議千金楽理事長から感謝状を手渡しました。



栃木県青少年育成県民会議では広く 「県民総ぐるみで健全なとちぎの青少年を育むために」

賛助会員を募集しています

明日の“とちぎ”を担う青少年が、夢と希望を持って心豊かでたくましく成長することは、県民全ての願いです。

栃木県青少年育成県民会議では、「とちぎ心のスクラム県民運動」の主唱者として、次代の栃木県を担う青少年の健全な育成を目的とし、様々な事業を展開しています。

現在多くの賛助会員の皆様から会費をお預かりして、活動経費に充てさせていただいておりますが、より充実した活動の推進のために、更なる御支援が必要となっております。

つきましては、栃木県の青少年の健全育成のために、多くの県民の皆さまに趣旨を御理解いただき、賛助会員としてお力添えを賜りますよう心からお願い申し上げます。

令和7年3月

栃木県青少年育成県民会議 理事長 千金楽 宏

賛助会員数 (令和7年2月現在)	個人	200人
	団体	160団体
賛助会費	団体 (1口)	10,000円
	個人 (1口)	3,000円

■加入いただける場合は、<https://www.tmf.or.jp/youth/support>から、「賛助会員加入申込書」をダウンロードしてお申し込みください。

栃木県青少年育成県民会議賛助会員(団体)の御紹介

団体会員(50音順・敬称略) 令和7年2月現在 160団体

※個人情報保護のため個人会員(200名)の方々の掲載は控えてさせていただきます。

- 足利小山信用金庫
- 足利市更生保護女性会
- 一般財団法人 栃木県青年会館
- 一般財団法人 栃木県連合教育会
- 一般社団法人 ガールスカウト栃木県連盟
- 一般社団法人 栃木県医薬品登録販売者協会
- 一般社団法人 栃木県銀行協会
- 一般社団法人 栃木県経営者協会
- 一般社団法人 栃木県子ども会連合会
- 一般社団法人 栃木県山岳・スポーツクライミング連盟
- 一般社団法人 栃木県歯科医師会
- 一般社団法人 栃木県商工会議所連合会
- 一般社団法人 栃木県幼稚園連合会
- 一般社団法人 栃木県レクリエーション協会
- 茨城寺岡オート・ドア株式会社
- 宇都宮西ライオンズクラブ
- 宇都宮文化センター株式会社
- 栄研化学(株)那須事業所
- 王冠ボウル
- 恩賜財団 済生会宇都宮病院
- 学校法人東洋育英会
- 株式会社 足利銀行
- 株式会社 アメザワ
- 株式会社 荒井モーターズ
- 株式会社 井上総合印刷
- 株式会社 エフエム栃木
- 株式会社 オヤマ
- 株式会社 小山
- 株式会社 小山商会 筑波営業所
- 株式会社 島崎酒造
- 株式会社 清水造園
- 株式会社 下野新新聞社
- 株式会社 新成エンジニアリング
- 株式会社 太陽警備保障
- 株式会社 大高商事
- 株式会社 高津製作所
- 株式会社 栃木銀行
- 株式会社 とちぎテレビ
- 株式会社 栃木ファミリー
- 株式会社 栃木放送
- 株式会社 プレーン
- 株式会社 本田技術研究所 統括機能本部
- 人事企画推進室 庶務・渉外ブロック
- 株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷
- 株式会社 ユーテック
- 環境整備 株式会社
- 菊地歯車 株式会社
- 公益財団法人 産業雇用安定センター
- 公益財団法人 栃木県スポーツ協会
- 公益財団法人 栃木県農業振興公社
- 公益財団法人 栃木県ひとり親家庭福祉連合会
- 公益財団法人 栃木県保健衛生事業団
- 公益財団法人 日本ボーイスカウト栃木県連盟

- 公益社団法人 栃木県看護協会
- 公益社団法人 栃木県経済同友会
- 公益社団法人 栃木県獣医師会
- 公益社団法人 栃木県食品衛生協会
- 公益社団法人 栃木県防犯協会
- 佐野ガス 株式会社
- 佐野信用金庫
- 佐野地区金融団
- 下野印刷 株式会社
- 下野市議会
- 社会福祉法人 栃木県社会福祉協議会
- 社会福祉法人 蓬愛会
- 鈴木メンテック 株式会社
- 鈴木印刷 株式会社
- 滝沢ハム 株式会社
- 「小さな親切」運動栃木県本部
- 地方独立行政法人 新小山市民病院
- 中央労働金庫 栃木県本部
- 都賀総合開発 株式会社
- 東亜警備保障 株式会社
- 東海興商 株式会社
- 東京石灰工業 株式会社
- 東石建設 株式会社
- 東石リース 株式会社
- 栃木県PTA連合会
- 栃木県アミューズメント施設営業者協会
- 栃木県医師会
- 栃木県開拓農業協同組合
- 栃木県空手道連盟
- 栃木県弓道連盟
- 栃木県建設産業団体連合会
- 栃木県剣道連盟
- 栃木県興行生活衛生同業組合
- 栃木県公共図書館協会
- 栃木県更生保護女性連盟
- 栃木県高等学校PTA連合会
- 栃木県高等学校体育連盟
- 栃木県高等学校校長会
- 栃木県公民館連絡協議会
- 栃木県コミュニティ協会
- 栃木県市議会議長会
- 栃木県肢体不自由児者父母の会連合会
- 栃木県市長会
- 栃木県市町村教育委員会連合会
- 栃木県社会教育委員協議会
- 栃木県射的協会
- 栃木県小学校校長会
- 栃木県商工会女性部連合会
- 栃木県商工会青年部連合会
- 栃木県商工会連合会
- 栃木県職場警察連絡協議会
- 栃木県女性団体連絡協議会
- 栃木県書店商業組合
- 栃木県私立中学高等学校連合会

皆様からの暖かい
ご支援に感謝
申し上げます。



- 栃木県神社庁
- 栃木県信用金庫協会
- 栃木県信用保証協会
- 栃木県青少年育成アドバイザー会
- 栃木県青少年育成指導員会
- 栃木県青少年クラブ協議会
- 栃木県青少年指導員会連絡協議会
- 栃木県青少年団体連絡協議会
- 栃木県ソフトテニス連盟
- 栃木県ソフトボール協会
- 栃木県卓球連盟
- 栃木県たばこ販売協同組合連合会
- 栃木県地域婦人連絡協議会
- 栃木県中学校体育連盟
- 栃木県中学校長会
- 栃木県中小企業団体中央会
- 栃木県町村会
- 栃木県町村議会議長会
- 栃木県農業協同組合中央会
- 栃木県バドミントン協会
- 栃木県ハンドボール協会
- 栃木県美容業生活衛生同業組合
- 栃木県保護司会連合会
- 栃木県民生委員児童委員協議会
- 栃木県薬事工業会
- 栃木県遊技業協同組合
- 栃木県ユネスコ連絡協議会
- 栃木県ラグビーフットボール協会
- 栃木県理容生活衛生同業組合
- 栃木県林業振興協会
- 栃木県連合青年団
- 栃木県労働者福祉協議会
- 栃木市青少年問題協議会
- 栃木商工会議所
- 栃木たばこの会
- 獨協医科大学病院
- トヨタカローラ栃木 株式会社
- 那珂川町更生保護女性会
- 中村技研 株式会社
- 那須烏山市更生保護女性会
- 那須南農業協同組合
- 芳賀赤十字病院
- はが野農業協同組合
- 芳賀町工業団地連絡協議会
- 平石環境システム 株式会社
- 藤井産業 株式会社
- 平成アルミ 株式会社
- 平成理研 株式会社
- 水戸通信工業 株式会社
- 有限会社 正栄社印刷所
- 有限会社 高久燃料店
- 有限会社 那須クリーンセンター
- ライオンズクラブ国際協会333-B地区